

令和6年度 第1回大阪市地方独立行政法人天王寺動物園評価委員会 議事要旨

■開催日時：令和6年7月2日（火）13：30～16：00

■開催場所：天王寺動物園 TENNOJI ZOO MUSEUM

■出席者：

（委員） 有田 真紀 有田真紀公認会計士税理士事務所 公認会計士・税理士
高坂 佳詩子 弁護士法人色川法律事務所 弁護士
佐渡友 陽一 帝京科学大学生命環境学部 准教授
高瀬 孝司 オフィスT 代表（委員長）
原 久美子 公益社団法人日本動物園水族館協会 専務理事
水上 啓吾 大阪公立大学大学院都市経営研究科 准教授

（大阪市） 佐々木 康晴 建設局公園企画運営担当部長
池松 敏彦 建設局公園緑化部事業所企画調整担当課長
吉田 祥子 建設局公園緑化部調整課動物園支援担当課長代理
浦野 路与 建設局公園緑化部調整課担当係長

外2名

（法人） 計11名

【議事要旨】

1 開会

2 委員長の選出および職務代理者の指名について

- ・ 委員長：高瀬委員
- ・ 職務代理者：佐渡友委員

3 地方独立行政法人天王寺動物園の令和5年度業務実績評価について

資料1について法人より説明

<意見>

- ・ 水道使用量の削減に向けたマーケット・サウンディングについては、今後大阪市の水道料金も変動していくと思うので、引き続き検討していくべき内容と思う。（水上委員）
- ・ JAZA関係の委員受嘱や職員の資格、繁殖の成功、種保存会議等、動物園水族館雑誌への論文掲載など色々な良いニュースがあったので、これらをきちんと記録し、評価に繋げていただいていることはとても良いことである。（佐渡友委員）
- ・ ファンクラブのリピーター確保に努めるとともに、ファンクラブへの参加が保全活動に貢献する手段であるといえるよう、より一層、活動内容の充実に取り組んでいただきたい。（佐渡友委

員)

- ・ J A Z Aが実施する飼育技師認定試験は技術力を上げる1つの目安になるので、資格を持った人材が増えていくことは理想的だと思う。一昨年度から新設した上級の受験資格は経験10年以上が対象であるが、頑張ってチャレンジしていただきたい。(原委員)
- ・ バックヤードツアーはファンクラブの入会特典ということだが、できるだけ多種多様に取り組んでもらうことがリピーターの増加に繋がり、広い意味で天王寺動物園を知ってもらうことにも繋がるので、引き続き取り組んでいただきたい。(高瀬委員長)
- ・ すでにファンクラブに入会している人にとって、バックヤードツアーは魅力的に感じると思うが、まだ入会していない人に入会を促すレベルには達していないのではないかと。PRの手法については積極的に考えてほしい(佐渡友委員)。

資料2・3をもとに市評価について事務局より説明

<意見>

- ・ 小項目19で逸走事故に関する評価をしているが、安全対策に関する項目で評価した方が良いのでは。逸走事故について取り上げる項目が小項目に無いのであれば、今後のことを考えると、本来事故はあってはならないという前提で、安全対策やリスク管理に関する項目づくりが必要である。(原委員)
- ・ 年度計画のいう「計画に応じた設計整備」には逸走等が発生しないものを作るという大前提のもと整備をするのであれば、逸走事故について小項目19で取り上げるのも理解できる。(高坂委員)
- ・ 逸走事故を小項目19で評価することに違和感があるが、もし19で評価するのであれば、何かしらの文字や表現で言及しておいた方が良い。(水上委員)
- ・ 逸走事故では来園者を園外に退避させて臨時休園しており、来園者の安全に支障をきたした点で重大な事案であったと言える。その原因が設計にあったのであれば、小項目55を拡張して理解する方が妥当性が高い。(佐渡友委員)
- ・ 今後の獣舎整備にあたっては、飼育担当者だけでなく設計・施設担当者の双方が動物を飼育する上での注意事項を意識してもらうことで、事故を未然に防ぐことが出来るのでは。(原委員)
- ・ 逸走事故については、概ね3つの分類における「経営・組織・運営」に当てはまる項目のいずれかで評価すべきでは。その中でも小項目55が一番近いと考えられるため、最終的に市の内部で評価していただきたい。また、評価結果を変更する場合は、本来その項目で評価されるべきだった実績についても、市はきちんと評価することを忘れないでいただきたい。(高瀬委員長)
- ・ 環境エンリッチメントについては効果の検証が大切。各取組をきちんと継続できるようリソースを配分しながら、1つ1つの取組の質を高めることを意識して、今後の向上に繋げていただきたい。(佐渡友委員)
- ・ 今後環境エンリッチメントの取組、効果を評価する際には、取組によるビフォーアフターの表現の仕方、それを自己評価としてどう表すかを工夫していただきたい。(原委員)
- ・ ファンクラブの魅力をいかに非会員の方に伝えていくかという点では、もっと戦略的な事業計画を立てられるのではないかと。(佐渡友委員)

- ・ ファンクラブに関する令和6年度計画について、現計画だと目標値が全く記載されていないので、会員数を目標にする以上、今後は目標数値を明らかにしたほうがいい。(高瀬委員長)
- ・ 小項目16でヒヤリハット事例を取り上げると、大項目の「動物福祉に配慮した飼育の実践」という主旨と異なってくるのでは。(原委員)
- ・ 小項目16は中期目標にある「動物福祉への配慮」だけではなく、「飼育の実践」の全般的な事項を押さえるために必要と理解できるので、そのような位置づけで文言を整理してはどうか。(佐渡友委員)

4 第2期中期目標策定について

資料4について事務局より説明

<意見>

- ・ 天王寺動物園は都市型動物園であるということを踏まえ、周辺の天王寺エリア、大阪市全体、ひいては世界に与える影響など、動物園の持つ副次的な効果について中期目標に盛り込むことができれば、実態に伴う中期計画に繋がるのではないかと。(水上委員)
- ・ 動物園は収益施設ではないことを考慮しても、収支計画、事業収入が占める割合が低いのではないかと。時宜を得た入園料の改定が必要だ。(有田委員)
- ・ ファンクラブについて、財務内容の改善に関する項目で取り上げていることに違和感がある。持続可能な動物園を考えていく上で重要なのはドナーピラミッドの構築であり、ファンクラブはその基盤である。寄附金収入の面を考えても、現在のファンクラブの規模は小さすぎるので、長期的にどのように軌道に乗せるか検討が必要。(佐渡友委員)
- ・ 中期目標で定める事項のうち、財務内容の改善に関する事項について、現在の中期目標、中期計画は具体性に乏しい。独立した法人になっているので、次の計画はより具体的な投資計画や収支計画を策定し、それが5年間でどう推移していくかという点が重要。(高瀬委員長)
- ・ 入園料の改定についても、単に値上げするだけでなく大人、小中学生、65歳以上と全体のバランスについて検討が必要。(高瀬委員長)
- ・ 寄附金収入について、現在、動物園には営業の専任職員がいないが、一時的な個人の努力に頼るのではなく、持続性、継続性を持った組織作りが必要。次期中期目標を検討する際は、組織、人材とその役割分担についても議論する必要がある。(高瀬委員長)
- ・ 次の期間では遺産の寄附を念頭に取組んでもらいたい。(佐渡友委員)
- ・ 中期目標期間について5年は長い。収支計画など数字の面では3年くらいが妥当ではないかと。(有田委員)

5 閉会